

令和7年度学校研究

1. 研究主題

学び合う子をめざして

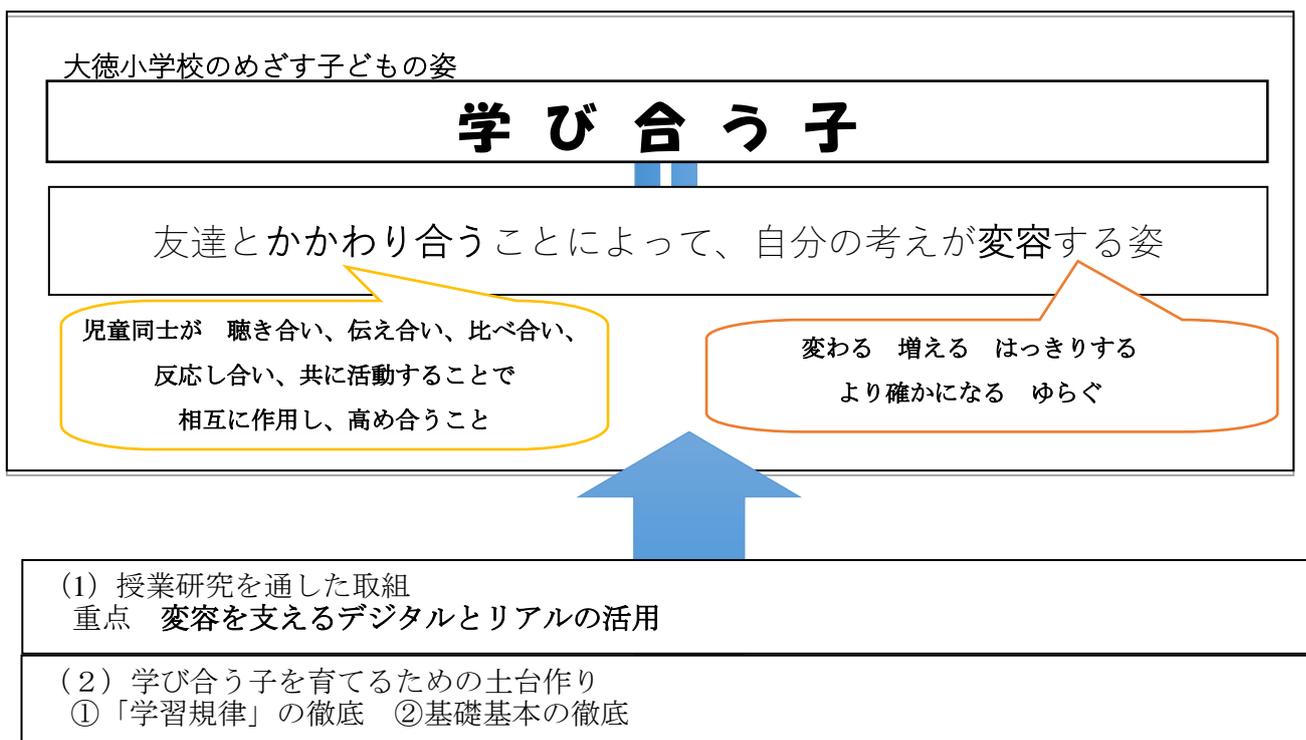
2. 研究主題設定の理由

本校の児童は、与えられた課題に対しては意欲的に取り組む。だが、自分から課題を見つけ、進んで解決に向かう主体性はまだ不足していると感じる。また、学習意欲や生活習慣、自己肯定感、他者とのコミュニケーション力には個人差があり、全員が安心して学びに向かうことができる場づくりも大切である。

そこで昨年度は、本校の教育目標、「心豊かでたくましく生きる子どもの育成 ～知・徳・体 調和のとれた大徳小教育の創造～」を受け、「学び合う子をめざして」の研究主題のもと、「かかわり合って変容するための手立て」を副題とし、ICT活用の工夫を重点に研究を積み重ねてきた。昨年度の成果は、ICTを活用して考えを可視化することで、友だちの考えを知り、比較したり考えを再構築したりする姿につながったことである。また、高学年では、共同編集のルールと場を設定することで、考えをまとめる必要感をもち自分たちで考えようとする姿につながった。昨年度の課題は、子どもの思考に合うカードを作成したり、交流の目的や視点をはっきりと持たせたりすることなどがあげられた。ICTを効果的に活用するには、ICTを使う時のルール（役割、順番、机上の置き方など）ややり方をより丁寧に、明確に指導する必要があることも見えてきた。

今年度は、研究主題・副題を継続し、重点を「変容を支えるデジタルとリアルを活用」とする。ICTを活用しつつ児童の変容に焦点をあて、教師の見取りを確実に行いつつ授業改善に取り組み、学校全体でめざす児童像に迫りたいと考える。

3. 児童像と研究の視点



II. 研究の内容

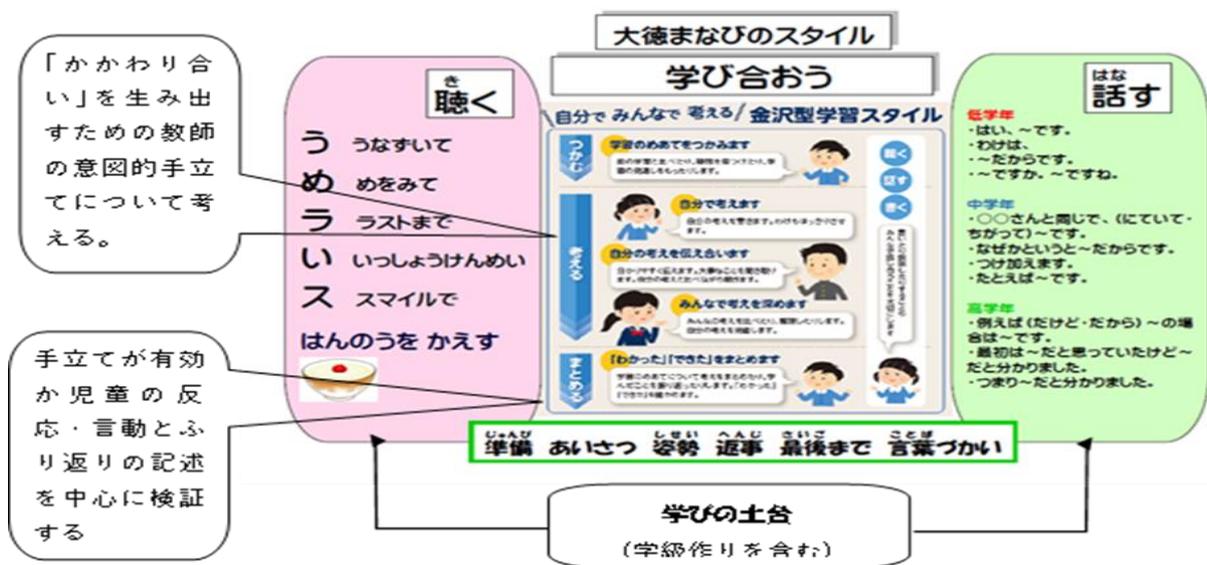
1. 研究の重点 変容を支えるデジタルとリアルを活用

主題である「学び合う子」に迫るために、様々な学習形態において、児童と児童、児童と教師のよりよいかかわり合いを生み出し、自分の考えが変容するような ICT の利活用方法を実践検証する。その際には、ねらいにつながるための目的があり、その目的が児童と共有されているか、また、その利活用は「ICT でなければならない」「ICT を使用した方がよい」という効果的な方法であるのかを、必ず吟味する。

2. 学び合う子を育てるための土台作り

(1) 学習規律の徹底

- ア 学びの構え「花丸机」「キンスタ」「挨拶」「姿勢」などを、掲示物を用いて指導する
- イ 話し方話型・聴き方について低・中・高学年の発達段階に応じて系統立てて指導する
- ウ 「大徳まなびのスタイル」を全教室に掲示し、児童と共に日々意識して取り組む



(2) 基礎・基本の徹底

- ア 基礎基本の定着をめざす「ぐんぐんタイム」
 - ・国語、算数・・・学力調査の分析等を活かしプリント等を実施
 - ・読書・・・家庭読書、図書ボランティアによる読み聞かせなど
 - ・ドリルパーク、タイピング・・・ドリル練習やキーボード操作の練習
- イ 家庭学習の習慣化
 - ・「家庭学習の手引き」を全家庭に配布し、毎日宿題を必ずする意識を定着させる
- ウ ノートの書き方の定着
 - ・ノートの基本的な書き方を提案し、全校で共通指導を行う
 - ・児童の良いノートをクラスに掲示し、広める
- エ おでんタイム
 - ・児童が自身の変容を自覚し、教師がクラス全体や個々の理解度や到達度を見取る手立てとするため、課題提示後と終末のふり返りの際に、マークで自己評価をさせる。理由も文章で表記できるよう指導する

3. 検証方法

(1) 「金沢型学習スタイルセルフチェックシート」

自己の授業や学級の学習規律を「セルフチェックシート」を使って毎月末に自己評価する。主幹が評価結果を集計し、学習委員会で学校全体の取組の進捗状況を把握し、取組の改善に生かす。

(2) 「大徳っ子アンケート」(児童アンケート)による検証

7月と12月にアンケートを行い、結果を分析して日々の授業改善、研究実践に生かす。

4. 研究構造図

学校教育目標



5. 研究方法

(1) 研究組織

